

鼠口

拆也是以御世御世○

御世、據一本改、作島之速贊獻之時、給猿女君等也。

〔古事記傳十六〕さて志摩は、もと伊勢の内にて、島々の多くある處を分て、一國とはせられしも

のにて、後までも伊勢に附たる國なり、然れば此に島とあるも、伊勢の海の島にて、即志摩國な

〔萬葉集六
歌〕狹殘行宮大伴宿禰家持作歌二首○一

〔倭訓釋志前編十一〕亥ま國の志摩も島の義也、古事記にみゆ、續日本後紀に、伊勢答志郡と見えて、伊勢を分てりといふ、よて伊勢島などいへり、或はもと伊勢參河の中間に在りしが、海の爲に淪

没せられて、後來伊勢の東邊を割て、志摩國とすといへるも、地形を觀察するに、さもありぬべし、畔乘のあたり、伊雜の浦に、數千尋の海底に、鳥居のありし物語も、證とするに足れり、

〔諸國名義考上〕志摩

和名抄に志摩之萬國府名義は、或書に志摩國風土記の逸文とて引たるに、志摩爲伊勢島之意也、

放地出海中之島也、後成國名云々、こは國體によりて號けたるなるべし、此國答志郡答志崎、海中にさし出て、參河國いらごが島と對ひ合ひたれば、島の國ともいふべきさまなり、

〔志摩國舊地考〕志摩一云島津國、又云

橋守部、神樂歌入文、弓立注云、今按伊勢島とは志摩國の事也、志摩はもと伊勢に屬て、一島はなれれば然か云也、されば此神樂などの如く、伊勢島やいそらが崎、伊勢島やたふじの浦など、よみたるはよし、中昔後の歌に、伊勢島や一志の浦など、よみしはひが事なり、一志ハ雲津星合の浦藤方、垂見邊の郡名にて、元より島國にはあらず、按ルニ入綾ノ辨説最宜シ、但シ一島はなれれば然か云也、ト云ヘルハ違ヘリ、國名ヲ志摩トハ云ヘド、彼淡路隱岐、佐渡ノ如キ離レ